

ラッカセイ (マメ科)

開花後、子房が土中に潜って豆になる。
石灰を好み、窒素が多いとつるボケになる
ので注意。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地直播栽培						播種					収穫		

1) 適地

連作障害が発生しやすいので、数年間は作付していない圃場を選びます。膨軟で排水のよい土壌が適しています。石灰分が不足すると、豆が実らずに空莢になるので、あらかじめ苦土石灰を十分に施します。

2) 品種

おおまさり、千葉半立、ナカテユタカ など

3) 作り方

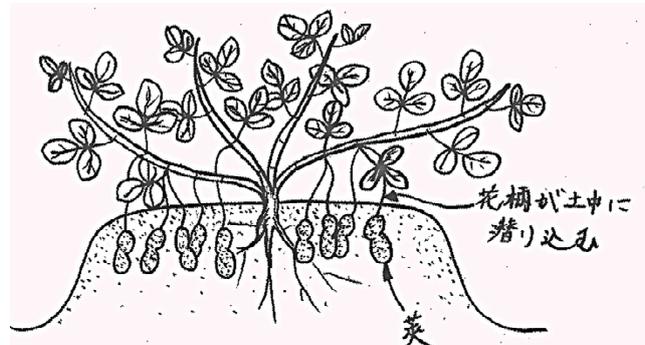
【圃場の準備】連作障害が出やすいので、7～8年作付けしていない圃場を選びます。定植の1か月前に1m²当たり堆肥2kg、苦土石灰200gを施して深く耕します。定植の1週間前に、1m²当たり苦土重焼リン20g、低度化成肥料20g、PK化成60gを施して耕耘し、幅80cmの畝を立てます。このとき、マルチを張っておいてもよいでしょう。

【播種】畝の中央部に、株間30cmの1条となるよう、1か所に2粒ずつ播種します。播種の深さは2～3cmとし、播種後は十分灌水します。鳥害を防ぐため、播種後は不織布や寒冷紗をベタがけしておくともよいでしょう。

【管理・追肥・土寄せ】播種後は、発芽してきたらベタがけを除去します。本葉3枚程度まで大きくなったら、株元に少し土寄せをします。草丈が30cm程度になった頃に畝上を中耕し、土寄せします。開花が始まった頃に、株の周辺に低度化成肥料を1m²当たり10g施用して中耕し、花柄が潜り込む部分をクワなどで中耕して柔らかくしておきます。マルチを張っている場合、中耕は不要で、花柄はマルチを突き破って土中に入ります。

4) 収穫

開花初めから数えて、概ね90～100日後より収穫が可能です。株の周りにクワを入れ、掘り起こしながら収穫しましょう。



莢のつき方

5) 病虫害防除

害虫ではコガネムシやヒョウタンソウムシが、病気ではそうか病、褐斑病などが発生するので、早めに防除します。